

そしん

第30号

発行/社会福祉法人 素心会
 責任者/彦坂 健一郎
 〒259-0103 神奈川県中部大磯町虫窪24番地
 TEL.0463-71-1255 番



骨太

平成11年12月3日、「健康がいちばん」というテーマの下、大磯町より講師の方を招いて講演『歯みがきについて』と『骨太体操』を行ないました。当日は好天に恵まれ、皆さん楽しく参加できました。



体操



虫窪24番地
 少し前の話ですが、昨年のお正月、我が家にアイドルがやって来た。平成十一年一月二日(四時一〇分のことである。平成十一年一月一日だったら私がよかつたのに...) 私は自分の子供が生まれるまでが大がつく程子供であった。でも茂香(もか)が生まれてきた瞬間(私は立ち会った)「なんて猿みたいなんだらう」と思いつつ、自分の分身のようで、「我が子はかわいいうん、たまらない」と思いついた。何より嬉しくて親戚や友人、友人に朝っぱらから電話しまくった。それからというものの手にビデオ、首からカメラとまるで海外旅行している日本人観光客のような姿で撮りまくった。病院で看護婦によく笑われた。親バカそのもので他の同い年ぐらいの子供を見て、やっぱり我が娘が一番だと思つた。定期入れに、車に、パソコンの壁紙に写真。もちろんブリクラは当たり前。気がつけばどこを見渡してもいつの間にか茂香だらけで、たまにだが(恥ずかしいで)仕事の合間に見てはニヤニヤしている。
 当面、私の夢は茂香をタウン誌などに掲載されるように地道に写真を送ることである。(鈴木淳也)

理事会の動き

◇第一九回理事会
 平成十一年五月二十二(土) 平塚ラスカサロンに於て開催され、次のとおり審議、決定しました。
 一、平成十年度素心会事業報告並びに決算についてそれぞれ原案のとおり承認されました。
 二、作業棟改築に係る助成金の申請が承認され、日本自転車振興会に申請することができました。
 ◇第二〇回理事会
 平成十一年九月十八日(土) 平塚神奈中グランドホテルに於て開催され、次のとおり審議、決定しました。
 一、当該法律の改正に基づき、就業規則、非常勤就業規則が改正されました。また、介護休暇規程が新設されました。
 二、日本自転車振興会から補助金が受けられることになり着工が済みました。
 ◇第二二回理事会
 平成十一年十二月十八日(土) 平塚ラスカサロンに於て開催され、次のとおり審議、決定しました。
 一、平成十一年度素心会本部会計及び各施設会計補正予算について原案と承認されました。
 二、平成十二年二月二十六日(土)に平塚神奈中グランドホテルに於て開催され、次のとおり審議、決定しました。
 一、平成十二年度素心会事業計画及び各会計予算について原案と承認されました。
 二、素心会給与規程、旅費規程、職務権限規程、育児休暇規程について、当該法律の改正等により一部改正が承認されました。

素心会の後援会の会員を募集しています。
 ご希望の方は事務局までご連絡ください。

ボランティア活動への
 LA・PORTE
 「障害のある人やお年寄りに優しい町は、すべての人に対しても優しい町である。」
 私たちと共に福祉を考え、支え、参加して優しい町づくりを目指しませんか

その他にも、納涼祭や秋祭り、ボランティア奉仕日などのご案内をお願いします。いろいろの後援会では、会員の方に無理のないいろいろな協力や参加のかたちを考えてあります。

- ① 銀行振込は
 中南信用金庫 本店 011-0350220
 横浜銀行 大磯支店 651-1109788
 さがみ信用金庫 国府支店 030-0017306
- ② 郵便振替は
 どここの郵便局でも 00270-0-19507 です。
- ③ 口座名は
 「素心会後援会」
 ※新しく会員になる方は、ご住所を電話等で知らせていただくようお願いいたします。

事務局 〒259-0103 神奈川県中部大磯町虫窪24番地
素心会 内 担当 萩原/高瀬
 TEL 0463-71-1255 FAX 73-0009
 (現在会員数) **266** 名

イベント情報

全日本
 アートサロン
 絵画大賞展

平成十二年二月に行なわれた、「全日本アートサロン絵画大賞展」に木工班の林学さんの作品を応募しました。この作品展は、全国四十五都道府県の一般の方から千六百五十八点の応募があり、林さんの作品は見事に入選し平成十二年二月九日から十三日まで新宿の朝日生命ギャラリーにて展示されました。

心創展

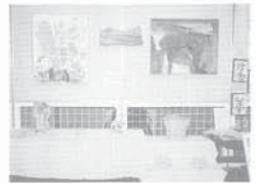
平成十二年一月三日から六日の日程で、「第九回心創展」が、平塚市美術館市民アートギャラリーにて開催されました。



今回は、小田原市にある四恩職業センターと合同で「アートパラリンピック長野・エイブルアート作品展」も併催され、訪れた方々の目を楽しませていました。

エイブルアート
 フォーラム
 神奈川

三月四日(土) 横浜ラポールにて「エイブルアートフォーラム神奈川」がなわ



れました。内容は障害のある人たちと芸術活動のあり方を考えるパネルディスカッションで、各パネラーの実践報告を基に障害のある人たちの芸術活動をどの様にサポートしたらよいか、芸術活動を豊かにしていくにはどの様にしたらよいかなどが話し合われました。
 このフォーラムは全国各地で行なわれていて、神奈川県は独自企画として、現在障害者芸術を実践している団体に向けて行なったアンケートの内容を会場に貼り出し参加者の興味をひいていました。
 また、素心学院を含む十五団体の障害者による作品が展示された別会場で、パネラーを囲んで交流会が行なわれ、活発な意見交換がされました。

編集後記

▲実家に帰ると、五歳の娘が必ず楽しみにしていることがある。近所にある「たかしや」で遊ぶことだ。高屋屋デパート屋上のちびっこ広場に小さいおやまがり、娘にとってはこれが高屋屋ではなく「たかしやま」なのだ。何と無邪気なことよ。最近、子供を巡る事件が多発している。世の中どうなっているのか。(高瀬)
 ▲朝起きたと思ったらもう布団の内に居る、あつという間に一日が終わってしまう。ハテ今日は何をしたのであろうか。その日の出来事を思い出せない時もある。単調な日々を送っているのか、それともただ歳のせいなのか。はやばやしているのあつという間に一ヶ月、一年、そして十年経ってしまったのです。(水島)
 ▲三十号である。昭和五十八年一月に創刊された「そしん」も、十七年の時を経てなんと三十号である。創刊に携わった人達も、今世紀中に三十号までは発行しようね、などと考えていたかどうかは不明だが、三十号である。これから先、はたしてどこまで続いて行くのかはわからないが、とにかく、「ちりも積れば」との気持ちで次をめざして行くこと心密かに思っている、という心が載るのも、三十号である。(七田)

平成九年より個人ボランティアの皆さんに活動して頂き始めて三年が経ちました。

今回の特集では、個人ボランティアの皆さんを紹介したいと思います。

ボランティア活動を して下さる方への想

素心学院施設長

彦坂健一郎

福祉施設だから、ボランティアの方が来てくれる。会社には、たとえ倒産しなくても、ボランティアが手伝いに行つたという話しは聞かない。それは「福祉」の目的が、そこに携わる個人や団体の為の物だけではなく、広く人間すべての為に、共通して存在するからだ、と言われる。

人、皆の為、人、皆が携わるといふことだろう。

閉鎖的、独善的、一人よがりになりがちな「施設」という空間を、皆の為に、皆の物にしてゆく為、ボランティアの方が風として光として力として、これらもかわりつづけていただけをお話しします。

あわせて、皆様が気持ちよく活動できる雰囲気施設のめざして、努力したいと考えています。

ボランティアの皆様、

デイセンター 紙すき班

二年半経って感じた事は、職員の方をはじめ、ここで働いている皆さんがとても優しいということ。少しくこの方々のお役にたて、利用者の皆さんが楽しく仕事が出来ようお手伝いできた、と思います。

(ボランティア 杉山)



杉山さん 戸井さん

素心学院でボランティア活動させていだいて二年半。月二回紙すき班のお手伝いとシーツ交換のお手伝いをしています。

初めは戸惑うことも多々ありましたが、利用者の皆さんにも最近では「おばさん、こんにちは」「また来る？」と声をかけてくれます。

これからも、細くながく続けたいと思っておりますので、どうぞヨロシクお願いいたします。

(ボランティア 戸井)

学院 木工班

「石の上にも三年」という事であるが、早いもので三年目の正月を迎えようとしている。振りかえって見ると、四十年間のサラリーマン生活を終えて第二の人生の一端としてボランティアを志したのですが…?

当初は日が経つにつれて、学院、ボランティアに対する日常の悩みが日々脳裏から離れなくなってきた。それは、考えていた様な物でなく深刻であり、先ず裸にならざる事苦しみでした。先ず自分…?



シーツ交換

毎週月曜日に行なわれているシーツ交換を手伝って頂いています。

(名)(volunteer) で社会事業 する人(こと)

①(国語辞典より)

分に対する存在価値、自尊心、役職等々すべての屑を捨てての毎日であり、久しぶりに味わう精神的格闘の連続であった事を忘れることは出来ません。これらは、サラリーマン生活を終え、初めてボランティア活動に意気込んだ者が味わう事ではないでしょうか。それだけに自分自身の存在感を肌身で感じ納得出来た時のいい知れぬ喜び、満足度は我以って非常に素晴らしいものであったと確信しております。

勿論、存在価値を見つけない事、ボランティアを続ける以上、大切なことですが、何と云っても職員皆様の人間性、人間関係はいうまでもなく、どんな社会に於ても基本となるべきお互い謙虚な気持ちと信頼関係ではないでしょうか。

現在私は、何の不足も無く、ただただ満足感と人間の素晴らしさにどっぷりと漬かっている毎日です。昨今感じている事は、体力、知力ともに少なからずガタが来ている事から、木工班での迷惑度も考え程々にしなければと思っております。

一方家庭では、学院でお世話になりつつ、目標を持つている態度が何えるのか、現状では幸いな事に「生ゴミ・粗大ゴミ」扱いは、辛うじて免



森脇さん

毎週火・水・木とは毎日の様に三年近くも来て頂いているので、利用者の皆さんも慣れ親しんでいます。外出や旅行にも参加して頂いているので、夜の様子も承知している、いろいろな意味でありがたく感じています。

ある意味では職員と交わらずに、いろいろなことをしてもらって良いのかしらと思うこともしばしばですが…

楽しく一緒に時間を過ごして頂いていると思います。

(職員 磯崎)

心から感謝しつつ、いつまでも風と、光と、力を、利用者の為にそそいでいただけることを願っています。

ボランティア

委員会より

個人ボランティアの皆さんが各班の作業に入る様になって、早くも三年になります。現在十名程の方が定期的に来院されていて、月一回の方もいれば、週に二回という方もいらっしゃるようです。

皆さんそれぞれマイペースで続けておられ、時間が経つにつれ、利用者の皆さんとの関係も深まって行った様になっています。

どうか楽しく、気長に、素心ボランティアを続けて行って下さい。

(中西文彦)

学院 授産一班

授産一班の作業のお手伝いとシーツ交換のお手伝いをさせて頂いています。初めは慣れませんが、だんだん利用者と話しやあそびが出来る様になり楽しんで来ております。また、時々少人数の利用者と散歩に出掛けたりお茶を飲んだり、楽しく過ごさせて頂いています。

シーツ交換のお手伝いは、なかなか数が合わなかったりして大変な事もありますが、皆さんが、私達が来るのにこ



花澤さん

「明日もまた来る？」という声をかけてもらうのがうれしくて、活動を続けています。そして、ちょっとだけノーマライゼーションの考えを大切にしたい人と人の付き合いが、大きな社会へと広がって行けばいいな、と思っています。

(ボランティア 清水)



清水さん

学院 鈴班

「明日もまた来る？」という声をかけてもらうのがうれしくて、活動を続けています。そして、ちょっとだけノーマライゼーションの考えを大切にしたい人と人の付き合いが、大きな社会へと広がって行けばいいな、と思っています。

(ボランティア 清水)

「明日もまた来る？」という声をかけてもらうのがうれしくて、活動を続けています。そして、ちょっとだけノーマライゼーションの考えを大切にしたい人と人の付き合いが、大きな社会へと広がって行けばいいな、と思っています。

(職員 矢野)

なにかとお世話になっています

利用者の皆さんと話しながら、なごやかに検品作業を行なって頂いています。

検品作業では、職員よりも、スピードも、正確さも、勝っているというウワサです。

(職員 矢野)

天気の良い日は、利用者の方二三名と一緒に散歩に出て頂いたり、東海太大病院内にある喫茶室でティータイムを過ごして頂いたりもなっています。利用者の皆さんにはとても受け入れられていて、皆さん笑顔でおしゃべりなどを楽しんでます。

雨の日などは、作業の検品等を行なって頂いています。やはり、皆さんと談笑しながらとても良い雰囲気をもも出し出しています。

(職員 青野)

学院

授産二班



ボランティア 自分から進んで などに奉仕

①

毎月一〜二回のペースで、利用者の川口さんと、後藤さんと一緒に、手芸やペーパークラフトを楽しんで頂いている方もいます。

デイセンター

外注班

夫婦でボランティアを始めて、二年半が過ぎました。

最初は鈴班で、現在はデイセンター外注班での検品作業をしています。

「何かボランティアを」と思い、踏み出した小さな一歩でしたが、利用者、職員、ボランティアの方々との出会いを通して、多くの事を学びました。

「力まず、無理せず、長続き」をモットーにして、できる限り、少しでもお役に立ちたいと思っています。

(ボランティア 西山)



西山さんご夫妻(中央)



桜井さん

もし心待ちにしてくれている人がいるならば、皆さんの顔を見に来よう、と考え今に至っております。これからもよろしくお願致します。

(ボランティア 桜井)

現在二名の方に、授産一班のお手伝いをして頂いています。作業の補助的な検品のほか、時には気分転換に散歩や、美容院への付き添いをお願いする事もあり、職員だけでは行き届かない点のフォローをして頂き、とても助かっています。

利用者の方々も、理解あるおつきあいをして頂き、毎週来院されるのを心待ちにしています。

これからも、今と変わらぬおつきあいを継続して頂ければと思います。

(職員 大島)

素心デイセンター ボランティア募集

素心デイセンターは、知的障害者の通所施設です。昨年4月に開設しました。当センターでは、利用者の活動をお手伝いして頂ける方を捜しています。活動内容は次の通りです。

1. 活動内容
 - ①歩行（散歩）の同行
デイセンター周辺や、平塚や小田原などの公園の散歩に同行して下さい。
 - ②クラブ活動のお手伝い
手芸・工作クラブ、音楽クラブ、絵画クラブ、水泳クラブ、料理クラブのお手伝いをして下さる方。



2. 活動日と時間

歩行	毎週 月・金曜日	午後1時15分～3時
クラブ	毎週 水曜日	

3. その他 ・当センターまでの交通費は自己負担となります。お車で来ていただくこともできます。

4. 問い合わせ先

素心デイセンター：TEL 71-1256

受付時間：平日の午前9時～午後5時まで
担当者：北村 中西

『今、思っている事』

青野 昭裕



今年の夏はいつもの夏にも増して更に暑かったですね。しかも9月いっぱい残暑が厳しく体調の維持がとても大変であったと思います。その代わりと言うと変ですが昨年の夏は家族4人で何度も泳ぎに行くことができました。

かなりすこい日焼けもしまして、本当に何年振りかで背中の皮が剥けてしまふ、という出来事もありました。一週間ぐらいヒリヒリする為、背中が洗えない程でした。軽度のヤケドになってしまつていました。

人間の力では防ぎきれない大災害が続いています。一部の間では国内で戦争をして殺し合っている所もありますが、大災害についても自然開発に対して余りバランスや将来の事を考えずに利益だけを考えた進めていった事も原因の一つだと考えられるのではないかと思います。利益を追求して行くこともとても大事な事ではあります。余り行き過ぎてしまつと、バランスが崩れてしまひ、元の形に戻すことはとても困難になってしまふのでしよう。ひとつの森を無くしてしまふ事は一日で出来るかも知れませんが、初めの形に戻すことは生態系の事も含めて考えると百年近くかかるのでしよう。一度壊してしまふと元に戻すことは大変な労力が必要です。ひとつのことだけを考えず、他方面から見る視点を持ち考えていく事が大切であると思います。

さて、世界的に見ましても台風、大雨、洪水、大地震など、

でも、この内容の様にずいぶんと偉そうな事を書いてし

ご寄付をいただきありがとうございます ございました

マイクロバス

平成十一年春、神奈川県福祉事業協会様及び神奈川県遊技場共同組合様より、二十九人乗りのマイクロバス（四百四十万円）をご寄付いただきました。素心デイセンター利用者への送迎車両として、毎朝夕、大磯と二宮の街を走り回っています。



テーブルセット

平成十一年春、茅ヶ崎市在住の滝沢様より屋外用のテーブルとイスのセットをご寄付いただきました。滝沢様のご長男が生前、素心学院を利用されていたことが縁で、デイセンターの開所にあたり御寄付いただきました。

このテーブルセットは素心デイセンターの屋上に設置して利用する他、行事のある時はグラウンドにならべ、お客

様や利用者の休憩用として活躍しています。



ノート型パソコン

平成十一年夏、神奈川県県同募金会から配分金の受配を受け、ノート型パソコン一台を購入しました。日々の食事を献立作りの為、栄養士が有効に活用しています。赤い羽根共同募金に寄せられた皆様のご意のおかげです。



オルゴール

平成十一年秋、日本のオルゴール機器のトップメーカーである(株)三協精機製作所様より四十四台のオルゴール機械をご寄付いただきました。素心学院では専門家の指導のもと

で、木工製品を作っていますが、その活動を応援していただきました。技術的なアドバイスもいただきつつ、ステキなオルゴール作りをめざしてチャレンジ中です。

チョコレート作り

平成十一年秋、神奈川県大和市で営業されている(株)大和パレス様より、チョコレートとキャラメルを段ボール二箱、ドーンといただきました。このプレゼントは六回目になります。

昭和三十七年十二月三十一日、明日はお正月という忙しい大晦日に、小田原の助産院で生まれました。産湯をつかいますのでお父さん中に入っています。お風呂が上がついてるバスタブに生クリームを塗ったよいうな我が子を、まるでつきたての餅のように両手でお湯に入れます。洗いは始めました。しかし、赤子は泣き声をださず、助産婦さんのなすがままにあっていて、この子は大人しくて、お湯につかっているのに少しも赤くなつてこない」と助産婦さんが、何度も体を叩いてきた。その奥に浮かんでいきます。



寒い日が続き、風邪をひかないようにと気を使いがらの毎日でした。生後

ります。山に積まれた雪子を見て、皆、目をパチクリ。秋祭りやクリスマス行事と毎日のおやつにいただき大好評でした。心の中が暖かく、甘く、優しくなりました。

皆様方の善意とご好意に、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございます。

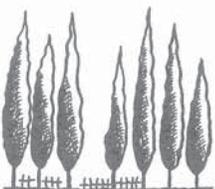
四ヶ月位から高熱と咳が続き、この頃からお医者さん通いが始まりました。内科を始め、アレルギーのため皮膚科、逆さまつげのために眼科など、三歳くらいういぶん病院通いは続き注射もずいぶんしました。そして三歳児検診で、知能、こは、体の動き等で紹介された横須賀の病院へ二年近く通ひ、薬も色々飲みました。この頃はまだ背中におおつての通院でした。

七歳のとき、家庭訪問教師の方が来て下さるようになり、秀行も体を動かすことを覚えました。心のやさしい方で、四年前にお亡くなりになるまでお付き合いをさせて頂きました。

家族ペンリレ

素心学院回収一班
辻 三郎・佐江子

その後、障害児訓練室に通っていましたが、瀬谷養護学校が開校し三年生に入学しました。しかし、なかなか馴染みずお友達と一緒に遊ばせませんでした。そんな中、母親の体調が思わぬなか、児童相談所へ行き色々お話を伺い、その結果紹介して頂いたのが素心学院でした。初めて訪問したとき、前施設長の田代さん、星野さんのお二人と面接し、詳しい説明を聞きました。若しくはつらつとして力強い励ましや声の中にも、落ち着いた心やさしいお二人の話を聞き、是非ここでお世話になりたい、と決心ができました。秀行を預けての帰り道、なぜか涙が流れます。



あれから二十七年経ちました。こんな秀行ですが小さい頃からの一つの特技があります。一円玉をクルッと回し、それが結構長く回っていて本人も手を叩きクラクラと楽しそうに笑うのです。その顔を見たくて時々回しています。

父親と江の島へ行くのが何よりの楽しみようです。大好きなバスに乗り、電車に乗り換え秀行の喜びそうな場所、食べ物など父親と二人だけの遊び。帰ってくるなりハアハア言っていて嬉しかったことを伝えてきます。

道

教路 社会福祉の道

『男女共同参画社会』と福祉

神奈川県立かながわ女性センター

伊藤 泰



「男女共同参画社会」ということを、耳にすることが多くなってきました。これは、女性も男性も、家庭や職場、地域などで、対等に活動し、等しい権利を受け、ともに責任を担う社会をいいます。この6月に制定されました。この法律では、性差別をなくし、女と男が家事や子育て、介護でも役割と責任を分かち合い、家庭生活と他の社会活動が両立できるようにすることを「国民の責務」と定めていくのが特徴となっています。

男女ともに根強い「家事・育児は女性の責任」とする考え。女性の政策・方針の場への参画が少いこと。女性に対する暴力の深刻化。妻・嫁・娘など女性が多くの負担を担う。この法律がめざす社会にむけては、こうしたもの以外にも多くの課題があります。

「まだ少ない、政策・方針づくしの場への女性の参画」

政治の場や行政機関、企業などでのこうした参画は依然として遅れており、国会議員の女性議員率が国際的にみても低い状況です。また、身近な地域活動の場でも実際の活動は女性が担いながら、方針決定への参画は進んでいません。社会で半数を占める女性の意見を反映していくには、

「妻・嫁・娘など、女性が多くの負担を担う育児や介護」

従来、育児や介護といった役割は、そのほとんどを家族が担ってきたとされており、社会全体で支援する体制が十分に整備されていません。少子高齢化など、育児や介護をとりまく社会環境が変化してきたなかで、育児・介護のほとんどを担っている女性が、身体的に

も精神的にも大きな負担をおうケースが増えてきています。「男は仕事、女は家庭」といった、従来からの性別役割分業の考えただけでは、男女共同参画社会の実現は困難です。男性の仕事中心の暮らしから、家庭・地域への参画をすすめるため、男女がおたがいの活動を支えあい、仕事・家庭も責任を分担するといったことが求められます。こうしたことは、すでに実践している(せざるを得ない)といった家庭もあるかも知れません。また、「支えあい」「分担する」と、言うは易しきですが、その実行は大変です。家族構成、経済状況など家庭の事情もさまざまです。また、男女の意識の持ち方も大事ですが、それだけではすまされず、社会のしくみ(育児・介護休業制度、仕事中心の企業風土など)の改善が必要な場合もあります。

「女性に対する暴力の深刻化」

かながわ女性センターでは、夫から妻への暴力の相談も受けていますが、相談件数は平成十年度は二七八件と、この数年増大しています。この原因には、被害者である女性の人権意識が高まり、これまで誰にも相談できなかった妻たちが声をあげて相談できるようになってきたことがあると考えられます。相談の大半は、殴る、蹴るといった身体的な暴力行為を訴えるものですが、中には何を言っても無視をするなどの精神的暴力、生活費を入れないなどの経済的暴力もあります。また、当センターでは、緊急一時保護室(シェルター)を運営しており、こうした暴力を受けた親子の入所も年々増えています。入・退所での福祉事務所など福祉部門との連携、精神的なダメージを受けた被害者のメンタル・ケアといった医療面での対応、退

「PCG」

いくつかの点について私見もまじえて書きましたが、男女共同参画社会の実現には、意識の改革とあわせて、特に福祉、そして労働、教育などといった女性行政以外の分野と連携しながら、しくみ(制度)を整備していく必要があると考えています。ちなみに、伝統的な男女役割分業意識がまだ残る私にとって、わが家の男女共同参画社会の実現には、かなりの時間がかかりそうです。

この寄稿は平成十一年十二月にいたされました。伊藤さんは神奈川県職員で、障害者福祉も担当されたことがあり、公務をおして素心学院も大変お世話になりました。



計報



池上博朗 さん

施設長 彦坂健一郎

平成十二年一月十二日午後九時五分、利用者の池上博朗さんが神奈川県ハビリテリション病院にて病気の為、四十六才の生涯を終えられました。博朗さんは、素心学院が葉山にあった時代に九歳で入所し、大磯へ移り児童施設時代を経て成人へ移り、三十七年間にわたる素心での生活となりました。散歩、ドライブ、本、そして若い女性とビールが大好きで、誰からも愛される人柄でした。素心学院の看板息子を失ったようで淋しいかぎりです。とあし、少し早目に行ってしまうかもしれませんが、皆そのうち必ず行きます。待っていて下さい。心からご冥福をお祈り申し上げます。

七田 彦彦

人は一生のなかで、何人の人達と出会うのだろうか、また、どれだけの思い出を残せるものなのだろうか? 学生時代に友人とそんな話をした事を、ふと思ひ出しました。博朗さんとも、たくさんの思い出を作りました。暑さや寒さにも負けず楽しんで頑張り続けた作業、旅行や外出の思い出。作業後の休憩中にブランコに乗って手をたたくて喜んでいました。一緒にサウナに入ったりもしましたね。四十六才という、けつして長い人生を送りましたが、楽しい思い出をありがとう。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

指導部長 浅見 茂

量子さんと私のあいさつは一風変わった。まるで西部劇の決闘のようである。まず量子さんが、おなかに手を入れて立つに登場。続いて私が立つ。お互いにべりりと頭を下げる。ゆっくりゆっくりと歩み寄る。すれ違わずに私が手を出すと、彼女がその上に手を重ねる。「元氣?」との私の声に、「こちらを見て小さな上品な声で「げんき」と答えてくれる。そして何事もなかったかのようになり二人は離れていく。いつの頃からか、こんなあいさつが始まった。今でも廊下で待っていると、ひよっこりと部屋から出て来てくれるような気がする。颯々とマイペースで生活していた量子さんが、安らかに……。

磯崎ひでみ

お部屋を覗くといつも机に向って、赤や黒のペンで「なふてか」「あれは。時には、「うるさい」と書いていた量子さん。チョコレートケーキとコーラが好きで、いつもうれしそうに食べていた姿が浮んできます。作業棟では、丸いイスの上に正座して木工製品を磨いていました。いつも黙々とお仕事をしてくれていた量子さん。



佐々木 杜六 氏

平成十二年一月十三日、ご病気のため、佐々木杜六先生がお亡くなりになりました。杜六先生には、二十年以上にわたって絵画クラブの講師としてお世話になりました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。



素心学院職員親睦会

音楽クラブ

この「元氣屋楽団」も今年で5年目に入りました。始まりは土井さんとたつた2人。クリスマスのお出し物として、何曲か演じたのがきっかけでした。ピアノが弾ける女子職員に声をかけたのですが、皆恥ずかしくて参加してくれず、メンバー集めが大変でした。現在のメンバーは7人。ドラマは厨房の菅野さん。キーボードは川村さん。ベースは照井さん。ギターは私。そしてボーカルが、土井

さん、鈴野さん、瀬戸さんの3人です。納涼祭とクリスマスパーティーへの出演がいつの間にか、恒例になっていて、1ヶ月位前になると慌てて練習を始めるのがパターンになってしまいました。「与作」「思い出の渚から」「フォルテン」といったロックな曲。節操なしの受け狙い。今年は少し反省して、格調高く、ゆとりを持って等と考えていたのですが、昨年の夏もあわてて準備を始め、相変わらずのドタバタバンドでした。それでも皆さん喜んでくれる顔を見ると、やっぱり続けて良かったなアと思っています。今後は、利用者の参加や、民族楽器の導入等、やってみない事がまだまだあります。周りの人をウキウキさせる様な音楽をやりたいと思います。どうぞよろしく。(中西 文彦)

前六時五十五分、利用者の中上量子さんが平塚共済病院にて病気の為、六十二才の生涯を終えられました。

